

# 競技注意事項

## 1. 規則について

本大会は、2022年度日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会申し合せ事項により実施する。

## 2. 練習場および練習について

- (1) 大会当日のトラック競技・フィールド競技の練習は補助競技場にて行うこと。但し、投擲種目については砲丸投のみ練習可能とするが、円盤投・やり投・ハンマー投の練習は不可（投擲物を投げない助走練習やターンの練習のみは可）。その為、公式練習前に試合ピットでの練習を認める。練習できる時間は、招集完了から競技開始時刻までとする。その際は安全面に十分に注意すること。なお、補助競技場内でのメディシン・ダイナマックスボールを用いた練習は、指定されたエリアのみで認める。
- (2) 大会前日は本競技場での練習を認める。但し、投擲種目については補助競技場での練習とするが、円盤投・やり投・ハンマー投の練習は不可（投擲物を投げない助走練習やターンの練習のみは可）。なお、補助競技場内でのメディシン・ダイナマックスボールを用いた練習は、指定されたエリアのみで認める。（注）練習会場の投擲用具は各自で持参したものを使用すること。

## 3. 競技場使用の注意

- (1) 本競技場は、全天候舗装である。スパイクシューズのピンの長さは、トラックでは9mm以下、フィールド（走高跳・やり投のみ）では12mm以下を使用すること。建物内ではスパイクで歩かないこと。
- (2) 出場競技者は競技役員の指示に従って入場、退場すること。
- (3) 本競技場は全面禁煙とする。

## 4. 招集について

- (1) 招集所は第4ゲート付近のスタンド下室内走路に設ける。
- (2) 各競技の招集時刻を下記の通りとし、すべてその競技の開始時刻を基準とする。

	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	30分前	20分前
跳躍競技（棒高跳を除く）	40分前	30分前
棒高跳	100分前	60分前
投擲競技（砲丸投を除く）	50分前	40分前
砲丸投	40分前	30分前

\*混成競技の招集は1日目、2日目とも最初の競技種目開始予定時刻の30分前に招集所で完了する

- (3) 各係の指示に従って、各出発地点及び各試技場等で最終点呼を受けること。
- (4) 招集完了時刻に遅れた者は、棄権とみなす。
- (5) 同時進行種目への出場競技者は、「重複出場届」に必要事項を記入し、最初の種目の招集完了時刻までに招集所（競技者係）に提出する。「重複出場届」は招集所において配布する。
- (6) リレーのオーダーは、代表者会議にて学連から配布する用紙に記入して、招集完了時刻1時間前までに競技者係（招集所）に提出すること。また予選を通過したチームは2名まで競技者変更を申し出ることができる。ただしその2名はプログラムに記載がある者に限る。決勝に関しても提出を忘れないようにすること。

## 5. 棄権について

- (1) 出場競技者の棄権については、予め代表者会議で届け出ること。
- (2) 当日やむを得ず棄権する者は、招集所に置いてある所定の「棄権届」に必要事項を記入し、招集開

始時刻までに招集所（競技者係）へ提出すること。

#### 6. アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブスは本大会用のものを使用すること。
- (2) アスリートビブスは、胸・背両面につけること。但し、跳躍競技出場者は、胸または背のどちらか一方でよい。
- (3) 800m 以下のトラック競技出場者は、招集時に配布されるレーン番号の腰ナンバーゼッケンをパンツ右側につけること。4×100m リレーと 4×400m リレーは第 4 走者のみ腰ナンバーゼッケンをパンツ右側につけること。1500m 以上のトラック競技出場者は通し番号の腰ナンバーゼッケンをパンツ右側につけること。腰ナンバーゼッケンは競技終了後、補助員が回収する。

#### 7. 競技用具について

- (1) 競技に使用する用器具は、すべて主管者側が用意したものを使用すること。但し、やりとポールについては当日事前に 100m フィニッシュ側の器具庫内で検査を受け、使用許可を受ければ個人所有のものを使用することができる。
- (2) 個人所有のやりとポールは 100m フィニッシュ付近横、競技場出入口の器具庫にて競技開始時刻の 2 時間前からの 30 分間で検査を受けて許可されたものでなければ使用できない。検査を受けたやりは借り上げ式とし、競技者全員が使用することができる。
- (3) 競技用靴について  
『日本陸上競技連盟競技規則 T R 5』に則り、800m 未満のトラック種目、三段跳を除くフィールド種目では靴底 20mm 以下、800m 以上のトラック種目、三段跳では、靴底 25mm 以下のシューズを使用すること。全フィールド種目において、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。  
また、競歩種目における靴底の最大の厚さは、道路競技と同じ 40mm 以下とする。

#### 8. 競技について

- (1) 競技中における助力は『日本陸上競技連盟競技規則 T R 6』に則り規制される。これに抵触する場合は審判長から注意・勧告をするが、是正されない場合はその種目から除外される場合がある。
- (2) 競技中における失格は『日本陸上競技連盟競技規則 T R 7』に則り規制される。競技者がある種目で C R 18.5 に定める競技者にあるまじき行為あるいは不適当な行為、あるいは T R 1 6 . 5 により 2 度目の警告を受けた場合は失格となる。特にスタートの遅延行為がこれに該当するため注意すること。もし、2 度目の警告が違う種目で行われた場合は 2 度目の種目で失格となる。
- (3) トラック競技
  - ①短距離走では、競技者の安全確保のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走ること。
  - ②スタートの合図は英語で行う。
  - ③不正スタートは 1 回で失格とする。但し、スターターの号砲以前の動きは注意のみとする。
  - ④男女 5000m、男女 10000m、男女 10000mW、については時間制限を設ける。それぞれ以下に示した、時間までに残り一周に到達しない場合はレースを打切ることとする。

	5000m	10000m	10000mW
男子	20 分	40 分	55 分
女子	25 分	45 分	60 分

#### (4) フィールド競技

- ⑤フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従うこと。
- ⑥跳躍種目およびやり投の競技者は、助走路の外側（走高跳は助走路内）に競技者が用意した規定のマーカーを 2 個まで置くことができる。また、砲丸投・円盤投・ハンマー投についてはサークル直

後あるいはサークルに接して、主催者が用意したマーカーを1つだけおくことができる。これらの撤去は使用した競技者が責任をもって行うこと。

⑦三段跳の踏切板の位置は、男子は11m、女子は8mとする。(女子は9mに変更の可能性あり)

⑧棒高跳の競技者は、自分の希望する支柱の位置を該当審判員に申し出ること。

⑨走高跳及び棒高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。

	練習A	1	2	3	4	5	6	
男子走高跳	1m70	1m75	1m80	1m85	1m90	1m95	2m00	以後 3cm 刻み
男子棒高跳	3m00	3m20	3m40	3m60	3m70	3m80	3m90	以後 10cm 刻み
男子混成走高跳	1m50	1m50	1m55	1m60	1m65	1m70	1m75	以後 3cm 刻み
男子混成棒高跳	2m40	2m40	2m50	2m60	2m70	2m80	2m90	以後 10cm 刻み
女子走高跳	1m30	1m35	1m40	1m45	1m50	1m55	1m60	以後 3cm 刻み
女子棒高跳	2m00	2m20	2m30	2m40	2m50	2m60	2m70	以後 10cm 刻み
女子混成走高跳	1m30	1m30	1m35	1m40	1m45	1m50	1m55	以後 3cm 刻み

(注) 第1位決定試技の際のバーの上げ方は、走高跳は2cm、棒高跳は5cmとする。優勝が決まった後にバーを上げる場合、競技者は該当審判員あるいは審判長に希望の高さを、申し出てから高さを決定する。練習の高さは表の通りだが、任意の高さを認める場合もある。

#### (5) リレー競技

①4×100m リレーの競技者は、主催者が用意した大きさが最大50mm×400mmの粘着テープを1箇所、自らのレーン内に貼ることが許される。それ以外のマーカーの使用は認められない。その撤去は使用したチームが責任をもって行うこと。

②リレーに出場するチームは、同一のユニホームを着用すること。

#### 9. 表彰および対校得点について

(1) 表彰は各種目3位まで行う。該当する者は競技成績発表(アナウンス)終了後、表彰を行うので本部表彰席に集合し表彰係の指示に従うこと。該当者が他の競技に出場し、受賞出来ない場合は所属校から代理を出すこととする。その際に、表彰係に代理人であることを申し出ること。

(2) 賞状は8位までの入賞者に授与する。競技成績発表終了後、学連受付に用意するので取りに来ること。

(3) 最優秀選手(男女各1名)、優秀選手(3名)にはトロフィーを授与する。

(4) 対校得点は、1位8点、2位7点、以下6、5、4、3、2、1点とする。

(5) 総合得点が同得点の場合、1位種目の多い学校、それでも決まらない場合は2位種目の多い学校、以下3位、4位、5位、6位、7位、8位、4×100mRの成績、4×400mRの成績で決定する。

#### 10. 抗議・上訴について

競技進行中に起きた競技者あるいはチームの行為、または順位に関する抗議は、その種目の結果が正式発表(アナウンス)後30分以内(次のラウンドがある場合は15分以内)に、その競技者あるいはチームの監督により学連本部に申し出ること。その後、担当総務員を通して口頭で審判長に行く。またその間、抗議者は学連本部で待機すること。

#### 11. 天皇賜盃第91回日本学生陸上競技対校選手権大会へのエントリーについて

各種目優勝者には9月9日(金)~11日(日)まで、たけびしスタジアム京都で行われる天皇賜盃第91回日本学生陸上競技対校選手権大会の出場標準C標準記録突破者として参加する権利が与えられる。

## 12. その他

### (1) 応援について

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、密状態を避けるためメインスタンド含む競技場全体で集団応援及び発声の応援を禁止とする。また跳躍や投擲の際の掛け声に対する返事を控える事。ただし手拍手はしてよい。

### (2) 応急処置

競技中の事故等による身体の故障の場合、医務員が応急処置を行うが、その後の治療は本人または所属チームの責任で行うものとする。また、事故の結果について、本連盟は一切責任を負わないものとする。テーピングは自己負担とする。

### (3) 携帯等通信機器の持ち込みについて

競技場内に携帯等通信機器の持ち込みは禁止とする。出場種目の招集時に持って行かない。

### (4) 開場・閉場時間

		( 開 場 )	( 閉 場 )
大会前日	5月13日(金)	12:00	17:00
第1日目	5月14日(土)	7:30	18:00
第2日目	5月15日(日)	7:30	18:00

### (5) ゴミについて

各参加校は、両日ともに競技終了後、責任を持ってゴミの始末を行うこと。ゴミ袋は各チームで持参し、ゴミは原則として各校で必ず持ち帰ること。

### (6) 競技の撮影について

- ・学生及び各参加校の部長、監督、コーチは、学校名のわかる服装での撮影のみ認める。
- ・盗撮防止のため、100m スタート付近、及びフィニッシュ付近に撮影禁止区域を設ける。この区域では一切の撮影を禁止する。

### (7) 観客について

今大会は無観客で競技を行う。参加校の学生及び部長、監督、コーチ、並びに大会役員以外の一般観客の場内への立ち入りを禁止する。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、出場競技者及び関係者が密となる状態をできるだけ避けること。また、競技時以外の待機時や会場内ではすべてマスクを着用し、こまめに手洗い・手指の消毒を行うこと。